



ペンより剣が安い世界の中で

富山県立高岡高等学校 2年 端 希子

「ペンは剣よりも強し。」昨年のノーベル平和賞受賞者であるマララ・ユスフザイさんが国連で行ったスピーチを聞き、私はこの言葉を思い出しました。「1人の子供、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン……。」私と同年代でありながら、教育を受ける権利のために社会に立ち向かい、平和と教育の大切さを世界に訴えた彼女は1本のペンで剣と戦った人物の一人であると思います。

今年の夏休み、ネットニュースを見ていたときの事です。アフリカでの地雷問題についてのニュースだったのですが、記事のコメント欄に次のような言葉がありました。「地雷は現地の武装勢力にとって最も安上がりな兵器の一つで、100円で一つの地雷を作ることが出来る。だから地雷は無くならない。」とても衝撃を受けました。授業の一環として、家で見っていたニュースとして地雷によって被害を受けた子供達の写真を見たことがあります。彼らは足や手を失い、満足な治療も補助器具も使うことが出来ず、木の棒を杖に生活していました。人ひとりの人生を大きくゆがませてしまうような恐ろしい兵器はたった100円で作ることができるのだろうか。調べてみるとそれは本当であることが分かりました。100円があれば何が出来るだろう、今年の夏、財布を取り出す度に私は想像しました。例えば身近なことなら学校の自販機でジュースが買えます。鉛筆を1本買うこともできます。ノートも1冊買うことが出来るかもしれません。意外に100円で買える物は多いと感じました。その100円で人の命を奪うことも、人の人生を台無しにすることもできるのだと思うと100円はたちまちに重みを増すような気がします。私はアフリカに行ったことも、戦争を体験したこともありませんが、地雷一つ作るのに使う100円でペンやノートを買うことが出来るのなら、どれだけ幸せになれる人が増えるか、ということは分かります。1本のペンと1冊のノートはやがてマララさんのように世界や国を動かす大きな力になるのでしょうか。しかしそれは私が思っている以上に難しいことなのだと思います。ニュースを見たり、本を読んだりしていると今まさに戦争が起こっているような地域では「たった100円」の積み重ねを子供達に何年もしていくよりも一度の「たった100円」で子供達の未来を吹き飛ばしてしまうことの方が多いように感じます。

では私は何をすべきなのでしょう。私の身の回りにはたくさんの物があります。スマートフォンがあり、たくさんの教科書があり、何冊ものノートがあり、数えられないほどのペンがあります。そして何枚もの100円があります。これらを全て売って、恵まれない子たちに寄付をしようというような考えは違うと思います。それはただの自己満足でしかなく、物事の根本的な解決にはならないでしょう。時間は大分かかるとは思いますが、私は今自分が置かれている環境と身の回りの物を生かして、自分のペンを磨きたいと思います。大人になって、社会に出たときに、1本のペンが必要な人のために自分の知識を活用し、自分の考えを持って剣に立ち向かうような人になることが大切なのだと思うからです。自分のペンを未来、そして現在に生きる人々の笑顔の一助とすることができるように、常に「100円」の使い道を考え、行動していきたいです。